



2018.3.5

鈴木 恵一

## 持続発展する “あの大通高校”

### ◆ ESD に取り組む学校として

開校して10年も立つと「あっ“あの大通高校”ですね！いろいろな取り組みをしてすごいですねー」と、言われることが増えたなあ実感しています。教育関係者ではない方々にも広く知られる存在になったことをとても嬉しく感じ、そして誇らしく思います。

“あの大通高校”の「あの」に込められている意味やイメージは千差万別です。『ミツバチ・プロジェクト』『チャレンジ・オータム』『チャレンジ・グルメ』はメディアに取りあげられる機会も多いため、想像以上に広く市民、道民の方々に知られているようです。



それ以外にも、各種チャレンジプログラムで積極的・主体的に取り組んでいる生徒の姿を高く評価してくださる企業や支援団体がどんどん増えています。これは、過去の先輩達が少しずつ獲得してきた信頼のお陰であり、いわば「学校の財産」だと私は思っています。

振り返れば、“たった10年”という言い方もできますが、物事の持続・発展にはさまざまな困難がつきまとうものです。いま、世界各国では教育を通じて環境、貧困、人権、平和などにつて、**ESD**



(**教育 持続可能 開発** / **Education for Sustainable Development** / 持続可能な開発のための教育) の概念が浸透しつつあります。具体的には、

- ①環境の保全 ②経済の開発 ③社会の発展

について、社会の構成員である一人ひとりが(あなたも私も)身近な日常生活や経済活動の場で意

識し、行動を起こそうという理念です。そうした基礎を身に付けるうえで、教育・学校の果たす役割はとて大きいことから、どこの学校の教育であっても質の高いESDの学びを通じて恩恵を受けられるよう、グローバルスタンダード(世界標準)がつけられています。養いたい力として、しばしば引用される項目があります。



- (1) 問題や現象の背景を理解する能力
- (2) 多面的かつ総合的なものの見方を重視して系統的かつ体系的な思考力を育む
- (3) 批判力を重視した代替案の思考力
- (4) データや情報を分析する能力
- (5) コミュニケーション能力
- (6) 社会に参画する能力
- (7) 将来のことを予測して物事を計画する能力

「**地球的視野で考え、さまざまな課題を自らの問題としてとらえる**」こと、「**身近なところから取り組み**」、「**持続可能な社会の仕組みづくりの担い手になる**」ことです。

そんな簡単に身につくものではありません。学生時代にその下地をつくりましょうということです。

大上段に振りかぶって、地球規模、国際レベルの大きな活動をやろうという話ではありません。日常のなかにある物事をしっかりと見つめ、時には目に見えない形で潜んでいる問題を掘り起こし、今の社会に不足していること、将来に悪影響を及ぼすかも知れない問題を見つける目を養いましょう。

よりよい社会にしていくために、自分なりの考えを持つ人になってほしいのです。

## ◆ ミツバチからいろいろなことを学んでいる学校

ミツバチは「環境指標生物」と言われ、餌(蜜源)となる植物の環境がしっかりとしていなければ生きていけません。一般的に都会は自然が少なくミツバチが生活するには不向きとされていますが、緑豊かなこの札幌はビルの屋上でもミツバチを飼うことが可能です。しかも、街なかでは農薬が使われることもありません。大通高校の隣には北大植物園があります。街路樹も豊富にあります。この周辺地域を学びのフィールドにしなが、いろいろな教科で学びを深めています。

